



2023.4.18

Salone del Mobile.Milano 2023 概略

第 61 回ミラノサローネ国際家具見本市 開催の目的： 見本市の未来を再設計し、永続的な価値を創造する

家具とデザインの業界で世界の基準点となる Salone del Mobile.Milano/ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)が開幕します。2023 年は、エウロルーチェ(サローネ国際照明見本市)の全く新しいレイアウトと複合的な文化コンテンツと豊富なプログラムと共に、明日の見本市というイベントに新しい意味を与え、デザインの世界における現在の変化や課題に対する具体的な回答を提案します。

ミラノサローネがようやく4月開催に戻りました。本日から6日間、ロー・フィエラミラノにて開催される**第 61 回**は、見本市システムの役割と進化について考えるための時間、場所、ツールであることを目指します。グローバルな実験室であり、文化の創造と思考の生成の場であり、出会いと比較のための包括的な空間であり、付加価値の生産者であることが証明されます。

このポジティブで建設的なエネルギーから、**3つの重要な新機軸**が生まれました。まず、上の階のホール(8-12、16-20)の全出展社を地上階へ移動し、よりシンプルに改善し向上させた**ワンレベルの見本市**に生まれ変わります。また、**エウロルーチェの新しいレイアウト**は、アクセスしやすく接続の良いリング状の導線によって、人とイベントの波を中心へと導きます。そして、建築からアートまで、展示、講演、ワークショップ、サイトスペシフィックインスタレーションなど、学際的・体験的なコンテンツを通じて、**隔年開催の照明見本市の空間で文化的要素**が表現されます。

ミラノサローネ マリア・ポッロ代表のコメント：

『明日の見本市』はどうなるのか。今日の Salone del Mobile.Milano(ミラノサローネ)は、すでにその答えを出そうとしています。見本市の価値を知り、それを守ろうとする人々の自信とコミットメントをもって、見本市体験の未来を見据えた、新しく、使いやすく、新鮮で、活気に満ちた**第 61 回**を開催します。この見本市は、新しさに満ち、コンタミネーション(混在)に寛容な見本市となることでしょう。デザインと家具は、科学、技術研究、アート、写真、デジタルコミュニケーション、出版など、さまざまなものに影響されるでしょう。新しい形式の見本市は、新しい深みのある視野を提案することで、この関係を示すでしょう。出展社の 34%が国外であり、この数字は年々増加しています。また、ヨーロッパ、アメリカ、中国をはじめ、サウジアラビア、インド、極東諸国からも多くの来場者が見込まれています。そして、伝統、厳格さ、真面目さに加え、情熱やイノベーションを予測し生み出す能力が混在するショーであることを信じています。だからこそ、デザインは、そしてそのコミュニティ全体が、サローネを住みやすく、訪れやすい理想的な場所として捉え続けることができるのです」



2023年のイベントには、35歳以下の若い才能を持つ550名のデザイナーが31カ国から、18カ国からのデザイン学校28校と、1,462の出展社を迎えます。サローネ・デル・モービレ（サローネ国際家具見本市）、サローネ国際インテリア小物見本市、ワークプレイス3.0、S.プロジェクト、サローネサテリテ、エウロルーチェ（サローネ国際照明見本市）で構成されるミラノサローネは、今年からワンフロア開催となり、美的で文化的な導線、体験的スペース、休憩・リラククスエリアなどを配備し、コール・トゥ・アクション（行動喚起）、カンファレンスの参加、ワークショップ、テーマ展示、ブックショップ、サイトスペシフィック・インスタレーションの体験、などを提案して、ビジネスも含め来場者の記憶に残る刺激的な長期にわたる繋がりを生み出す唯一の場を提供します。

【サローネ国際家具見本市、サローネ国際インテリア小物見本市、ワークプレイス3.0】

Salone Internazionale del Mobile（サローネ国際家具見本市）、Salone Internazionale del Complemento d'Arredo（サローネ国際インテリア小物見本市）と Workplace3.0（ワークプレイス3.0）では、さまざまなデザインと美しさの道が提案され、そのキーワードは「ウェルビーイング」と「環境責任」の2つです。素材の産地、製造方法、耐久性、モノの寿命に注意を払うことは、今日、疑う余地のない配慮であり、もはや過剰に繰り返されることはなく、美と健康、そして時代が求める静寂の感覚を守ることに尽力しています。形、素材、色、アウトドアの価値の再認識、伝統と職人技の再発見、静かな高級感など、あらゆるものが、美の追求にかかわらず、素材と環境を尊重するアプローチへのこだわりを裏付けています。また、モノが持つ物語性の回復も明らかです。モノが物語を語り、感情を喚起し、空間がそこに住む人々と共鳴することを可能にするのです。

【S.Project（S.プロジェクト）】

現代における最も重要な研究テーマである、コンテキストとスペースのハイブリッド化、そして個々のデザインから環境デザインへの移行に焦点を当て、プロジェクトの世界に向けたデザインプロダクトとソリューションの見本市として復活しました。例えば、完全にコーディネートされ、個人を歓迎し、安らぎを与えることのできる「巣空間」を構築する必要性など、デザインと感情の刺激が存在意義です。

【Eruoluce/エウロルーチェ（サローネ国際照明見本市）】

今年で31回目を迎えるビエンナーレ（隔年開催）のエウロルーチェは、ホール9-11、13-15で開催、Lombardini22/ロンバルディーニ22スタジオの設計により、展示レイアウトが一新されます。4つのホール間のつながりを改善し、導線を単純化し、同時に出品社の視界を広げ、誰もが十分なスペースを確保できるような展示になる予定です。“The city of Lights/光の街”がビエンナーレのコンセプトであり、テーマとなります。Beppe Finessi/ベッペ・フィネッシがキュレーションする学際的な文化コンテンツは、想像力と具体的なビジョンを特徴とし、エウロルーチェを感情と知識の幸福な実験室にしてくれることでしょう。Formafantasma/フォ

ルマファンタズマの緻密で知的な介入により、ビエンナーレの中心には、「AURORE (アウローレ)」と名付けられた没入的で内省的な体験のための大きな広場とアリーナが設置され、講演会など様々なイベントが開催されます。同じくフォルマファンタズマのデザインによる7つのコンステレーションで開催される展覧会なども会場内で併催します。

〈5つの展示〉

- 1. HELENE BINET /エレーヌ・ビネ. 自然、時間、建築**
展示デザイン、キュレーション: Massimo Curzi/マッシモ・クルツイ
現代写真の最も重要な写真家の一人であるエレーヌ・ビネの個展は、彼女の作品がいかに自然光と建築の関係を探求しているかを、オリジナルな写真セクションで紹介し
ます。
- 2. Fiat Bulb. The Edison Syndrome (エジソン症候群)**
展示デザイン、キュレーション: Martina Sanzarello/マルティーナ・サンザレロ
クラシックな白熱電球に敬意を表し、アートとデザインの間にある現代の物語を、一連の電球として構築し、その本来の実用的な使い方から、幻惑的なオブジェクトや小さな実験的インスタレーションに変身させる展覧会を企画・設置します。
- 3. Dawns. The Lights of Tomorrow (夜明け - 明日の光)**
キュレーション: Matteo Pirola (マッテオ・ピローラ)
展示デザイン: From outer Space
「人工の星」をキュレーション。今日の「デザイナー天文学者」が調査している発光装置、発光現象を提示するオブジェクト、軌道上の球体、反射面、まばゆい日食、“From outer Space スタジオ”が設置したカラーオーロラなどを一挙に紹介します。
- 4. Interior Night. Bright Artifacts (インテリアナイト ブライト・アーティファクト)**
Michele Calzavara/ミケーレ・カルザヴァーラ
展示デザイン: Berfu Bengisu Gören (ベルフ・ベンギス・ゴーレン)
人工光を主役とするインテリア建築の映像展のキュレーターを務めます。光源を認識するための印や光点で構成されています。ベルフ・ベンギス・ゴーレンが実現したこの展示レイアウトは、実際の展示スペースと、出展企業のワークショップ、会議、技術やテクノロジーのデモンストレーションのためのスペースという2つの機能が同時に存在することを想定し、ハイブリッドな性質を持つことになります。
- 5. 特別展示 SCINTILLAS. /シンティラス 光り輝く言葉たち「レンマリオ」**
Marta Elisa Cecchi (マルタ・エリーザ・チェッキ)キュレーション

Leftloft (レフトロフト)グラフィックプロジェクト

単語、音節、音素から構成される「光り輝く言葉たちの銀河」が、正確かつ特殊な方法で、来場者の視線を活性化し、光の空間に最も関連するレンマ(見出し語)の意味を明らかにするのです。

● サイトスペシフィック・インスタレーション You Can Imagine the Opposite**Maurizio Nannucci (マウリツィオ・ナンヌッチ)**

現代美術における人工光の最も強力な解釈者の一人であるマウリツィオ・ナンヌッチによる、サイトスペシフィックなインスタレーション。「YOU CAN IMAGINE THE OPPOSITE」と書かれた長いネオンが、「反対を想像する」ことを理想とし、創造性と好奇心と高潔なアプローチを促します。

● ライブラリー

また、デザイン、アート、イラストレーションを扱うライブラリーには、「光」をテーマにした文学書が並び、まさに「文化の駐屯地」ともいえるべき重要な場所となることでしょう。このスペースは、Corraini Editori/コライニ・エディトーリがキュレーションし、デザインはフォルマファンタズマ・スタジオが担当し、親密で温かく包み込むような場所をイメージしています。

エウロルーチェのホール内には、ビエンナーレのコンセプトと調和したピエロ・リッソーニのデザインによるダニエル・カンツィアンのビストロとジェンナーロ・エスポジートの高級レストランが設置されます。

更に、出展社によるワークショップ、ラウンドテーブルも開催されます。

【第24回 SaloneSatellite/サローネサテリテ開催(エウロルーチェ内)】

550以上のデザイナーやデザイン学校が参加するサローネサテリテは今年、エウロルーチェの13-15ホール内で展示、優れたデザインの未来を表現します。今年のテーマは「デザインスクール - 大学/BUILDING THE (IM)POSSIBLE.プロセス、プログレス、プラクティス」。サローネサテリテは、デザイン学校と大学にスポットライトを当てることで、新しいデザイナーの育成とデザインの発展に、これからも引き続き計り知れない貢献をしていくことを強調したいのです。そのため、展示スペースのレイアウトも一新し、参加する28校の学校と大学が個々のデザイナーを包み込むような外周リングに配置されています。

● サローネサテリテ・アワード

今回で12回目を迎えるサローネサテリテ・アワードも開催。

- **ラウンドテーブル**

今回のイベントでは、サローネサテリテの創設者でありキュレーターである Marva Griffin (マルヴァ・グリフィン) 氏が投げるテーマについて、Annalisa Rosso (アンナリーザ・ロッシ) の司会で、参加校・大学の代表 5 名によるラウンドテーブルを新たに設けました。参加校は、ECAL (スイス)、SCUOLA DEL DESIGN / POLITECNICO DI MILANO (イタリア)、TONGJI UNIVERSITY (中国)、DESIGN ACADEMY EINDHOVEN (オランダ)、SCHOOL OF DESIGN / PRATT INSTITUTE (アメリカ)、このように地理的に代表性のある学校を選び、できるだけ広く比較できるよう、長年にわたり SaloneSatellite でデビューしたデザイナーが多く在籍する学校の関係者が参加しています。

- 「SATE...LIGHT. 1998-2022 SaloneSatellite young designers」

また、**照明のデザイナーやメーカーに敬意を表した特別展示**を開催します。エウロルーチェとサローネサテリテ会場の境界にシンボリックに設置されたこの展示では、過去に開催されたサローネサテリテ参加デザイナーたちがデザインし、過去の参加をきっかけに多くの企業とのコラボレーションが実現し生産された照明の大部分が紹介されます。

- **巨匠ガエタノ・ペッシェを招いてトークイベント**

更には、サローネサテリテに待望の大物ゲスト、Gaetano Pesce (ガエタノ・ペッシェ) を招き、彼の長いキャリアとデザイン界への学際的貢献の主要なステップを語ってもらうとともに、彼の話聞く若い才能にインスピレーション、エネルギー、情熱を伝えてもらいます。

【Annalisa Rosso/アンナリーザ・ロッシのキュレーションによる新しいトークプログラム】

照明、テクノロジー、サステナビリティに特別な焦点を当て、エウロルーチェのアリーナ「AURORE/アウローレ」(ホール 13)で行われ、現代のデザインシーンにおける最も輝かしい声によるトークやディベートで見本市をより充実したものにします。エコロジーの移行や近未来におけるテクノロジーの役割など、共通のアジェンダにある差し迫った問題に関して、建設的な考えを反映し、共有します。坂茂、田村奈穂、Snøhetta/スノヘッタ創業メンバーの Kjetil Trædal Thorsen/シェティル・トラーダル・トールセンやプロダクトデザインディレクター Marius Myking/マリウス・マイキング、MAD の Andrea D'Antrassi/アンドレア・ダントラッシが、**照明のイノベーションが明日の暮らしをどう変えるのか**、多くの国際ジャーナリストから質問を受けるでしょう。プロジェクト、デザイン、建築が、いかにして現在を理解し、未来を想像し、新しい道を開き、解決策を見出し、直感と想像力を活性化させながら「可能性」をふるいにかけることができるかを、討論を通じて明らかにします。



【ラウンドテーブル】

また、現代建築の進化をテーマにした2つのラウンドテーブルでは、都市、サステナブル、照明、ランドスケープデザインの分野で活躍する著名人が、横断的で深い分析を行う場となります。

【企業向けワークショップ】

さらに、事業者、建築家、技術者、施工業者、技術推進者などを対象とした企業向けワークショップも充実しています。照明プロジェクトに関する技術的な知識を深め、空間の解釈や特徴づけに必要な機能的・表現的な選択肢を組み合わせるためのツールを提供し、最も多様なデザイン分野のニーズに応えることを目的として、さまざまなテーマが取り上げられます。

【イタリア家具工業連盟Claudio Feltrin(クラウディオ・フェルトリン)会長による経済成長率見直し】

「実験的、革新的、そして同時に伝統的。これが、第61回ミラノサローネが今日、一般市民、関係者、機関投資家に対して提示する言葉であり、世界で最も重要な部門の見本市としての強さとリーダーシップを再び確認するものです。ロー、フィエラミラノの会場では、エウロルーチェに最大限の表現力を持たせ、スーパーサローネから始まった変化と進化の道を継続する、一種のドレスリハーサルであると私は想像しています。この先、私たちはどうなっていくのでしょうか？しかし、私は、エウロルーチェの脚本が、関連企業や出展者とともに、未来のイベントの可能性を描くキャンバスになりうると考えています。この分野の企業は、最終的な数字がそれを裏付けていますが、サローネと同じように、多用途性、回復力、自己改革への意欲を発揮しています。2022年の結果は、木材・家具サプライチェーンが12.7%増、売上高566億円、輸出が13.3%増、イタリアの売上が12.3%増となっています。2023年は、過去2年間の2桁の業績を継続することができないことは承知しています。しかし、私たちは、2023年が正常化の年、つまり、原材料とエネルギーコストがようやく減少する道を歩み、コヴィット以前のレベルに戻ることが予想される年、そして、売上高だけでなく、本当に成長するのは生産であると考えられる年である可能性があります。そのためには、企業は持続可能性とトレーニングへの投資を続け、イタリア製デザインが浸透している国々を注意深く観察することが不可欠です。特に、インドやアラブ首長国連邦などです。ミラノサローネは、新旧のパートナーに出会い、自己紹介する最高の機会です。私たちの見本市は、まさにこのために生まれ、61回以上にわたって、人脈と知名度の比類なき拡大装置としての独自性と強さを証明してきました」



【ミラノサローネは持続可能なイベント開催に関する ISO 20121 認証取得】

2023 年に開催されるミラノサローネは、**環境、経済、社会に対する責任**を重視し、閉幕後、イベントの持続可能な管理に関する ISO 20121 の認証を取得する予定です。

そのため、エウロルーチェでは、マリオ・クチネッラの「Design with Nature」のように、このセットアッププロジェクトが会場内でなくとも他の場所でも継続できるように、Formafantasma (フォルマファンタズマ) と共にモジュール構造を考案しました。さらに、見本市では、共通部品の建設にリサイクル、再生、再利用可能な材料のサプライヤーを関与させ、人と地球への真の配慮に焦点を当てた戦略を持つ機関パートナーを選び、出展企業に提案する持続可能なセットアップのガイドラインを拡大し、消費した資源の再生と発生した廃棄物の吸収に取り組んでいます。ミラノサローネは、2022 年より、持続可能なビジネスのための世界最大のイニシアティブである**国連グローバル・コンパクト**に参加します。

【産業財産権】

創造性の保護、技術・技能・デザインの革新は、この分野にとって基本的な側面であるため、このイベントにとってもう一つの重要なテーマは、**知的財産の尊重**にあります。このため、ミラノサローネでは、今年も運営会社である **Federlegno Arredo Eventi S.p.A (イタリア家具工業連盟イベント社)** が、工業所有権の内容や特徴、侵害の可能性から保護するための手段を出展社に伝え、産業財産権の模倣が疑われる場合には情報提供と技術・法的支援を行い、見本市会場内で製品が出展された場合に報告書を作成する「**産業財産保護サービス (Servizio Tutela Proprietà Industriale)**」を保証しています。2015 年に開始された本サービスは、産業財産権 (モデル、商標、意匠、特許) の戦略的重要性について、企業の意識を高めることを目的としており、有益なイノベーションと国際化の目的でもあります。また、今回、**イタリア家具工業連盟イベント社**は、EUIPO (欧州連合知的財産庁) のサービスに関する情報を入手する機会を提供します。

【1,200 件に上る来場者インタビュー】

出展者、来場者、関係者が展示会をどのように体験し、どのように受け止めているのか、彼らの期待、目的、欲求、何が彼らを動かし、興味を持たせ、参加の決断に影響を与えているのかを知ることは、展示会が正しい方向に進化し、時代を先取りしてコンテンツや提案を最善の方法で修正するための基本です。そこで、今回もエウロルーチェの新コンセプトの開発に貢献した **レオーニ・コーポレート・アドバイザーズ社** の創設者 **Paola Leoni (パオラ・レオーニ)** 氏の協力を得て、会期中に企業、デザイナー、デザイン愛好家、国内外の文化人などの来場者に **1,200 件のインタビュー** を行うことになりました。これらのインタビューと、キッチン・バスルームに焦点を当て、ここ数週間で即席に作られたワーキングテーブルから導き出された結論により、今日時点で、次回開催に向けた作業とシナリオを設定することが可能になります。

【ミラノサローネ・デジタルプラットフォーム】



今年の開催では、**デジタルとリアル**の完璧な融合がひとつの鍵となり、日々起こる体験やストーリー、コンテンツの飛躍的な充実が可能になります。このため、国内外の業界紙やミラノ市の公式プロモーション機関である YesMilano とのコラボレーションにより、デジタルプラットフォームの活動はこの数日、ますます活発化しています。ウェブサイト、ニュースレター、アプリ、ソーシャルネットワークなど、さまざまなタッチポイントで、見本市からのデイリーレポートやインタビュー、Tik Tok チャンネルの新しい立ち上げ、選ばれたクリエイターとのコラボレーションによる特別な活性化、コミュニティの拡大を目指した魅力あるストーリーテリング、ポッドキャストの新しいシーズンでは、展示会の主役と新製品を紹介、初めての試みとして、来場者に向けた拡張現実による楽しく革新的なコンテストでは、見本市とデジタルリアリティを組み合わせた体験、モバイルサロンの公式アプリです。

Salone del Mobile.Milano アプリの更新版では、**Mazemap** と共同開発した**拡張現実**や道案内「**wayfinding**」を含む新しい機能やサービスがアップデートされています。**チケットの購入、展示製品の詳細へのアクセス、QR コードをスキャン**して技術的な特徴をすべて知ることができます。また、来場者は企業とのアポイントメントを取ることで、興味のある人物と直接会うことができ、ブランドは**マッチメイキング**により、ブースの来場者と容易にコンタクトを取ることができます。公式ハッシュタグは**#salonedelmobile2023** と **#euroluce2023** です。

【8年目となるウェルカムプロジェクト】

ミラノサローネが常に掲げてきた「参加」「奉仕」「育成」という使命の証であり、その国際的役割を再確認するものです。これは、デザインおよび建築分野の優れた教育を代表する、**NABA、Nuova Accademia delle Belle Arti、IED Istituto Europeo di Design、Scuola del Design/Politecnico di Milano、Domus Academy** というミラノの主要デザインスクールと**ミラノ市とフィエラ・ファウンデーション** とのコラボレーションから生まれる成果なのです。このコラボレーションは、対話と経験や成長の機会の共有に基づき、学校と仕事場という異なる世界の歩み寄りとしての重要な要素を担います。サローネは、市内の中心部に**ウェルカムステーション**を設置し、**100人ほどの学生**が来場者に市内の移動に関する情報、見本市そのものに関する情報、そしてその週にミラノで開催される主なイベントに関する情報を提供します。

【ロンバルディア州 Attilio Fontana (アッティリオ・フォンタナ) 知事のコメント】

「ミラノサローネは、4年ぶりに恒例の4月開催となり、最も重要で権威のある国際見本市イベントの決定的な復活の兆しを見せています。このように、歴史的な伝統が再開され、セットアップやエウロルーチェにおける新提案により、より豊かなものとなりました。これは、ミラノ、そしてロンバルディア州が主催する世界的な知名度を誇る最も重要な機会において、ロンバルディア州の企業の精神を捉え、それを強化する方法を知っているイノベーションが横断的なプロセスであることを示すものです。このことは、イノベーションと進歩の原動力としてのデザインの役割、そして、ロンバルディア州の誇りであり喜びでもある木製家具という部門が、売上高と輸出額において、前向きに成長した結果を示していることを証明しています。パンデミックや紛争など、さまざまな要因が複雑に絡み合っているにもかかわらず、ロンバルディア州の企業は常に真のアバンギャルドであり続けています」

【ミラノ・スカラ座財団とのコラボレーション、3年連続で復活】

アイデア、文化、創造性の交流と循環に対して常にオープンであること、そしてミラノ市とのつながりの強さと価値を強調するため、更には共通の価値観を持ち、フィルハーモニー管弦楽団の才能を高めると同時にデザイン界にユニークな体験を提供することを目的に生まれたコラボレーションです。今年も、シンフォニーとバレエの両方で「照明」が主題になります。特にバレエでは、Andrea Crescenzi (アンドレア・クレセンツィ) の振付による Philip Glass / フィリップ・グラスの『Light (ライト)』は、サローネとエウロルーチェのために特別に振付された世界初の公演で、Linda Giubelli (リンダ・ジュベリ)、Navrin Turnbull (ナヴリン・ターンブル)、Domenico Di Cristo (ドメニコ・ディ・クリスト) が演じます。

公演は、Max Richter (マックス・リヒター) の音楽に András Lukács (アンドラーシュ・ルカーチ) が振付、衣装、照明を担当し、Nicoletta Manni (ニコレッタ・マンニ) と Timofej Andrijashenko (ティモフェイ・アンドリヤシェンコ) による素晴らしいパフォーマンス『Luminous (ルミナス)』で幕を開け、Patrick de Bana (パトリック・デ・バンナ) 振付、セット、衣装担当、Tomaso Antonio Vitali (トマス・アントニオ・ヴィターリ) の音楽に合わせて、昨年6月にスカラ座アカデミーを卒業した若きダンサー、Mattia Semperboni (マッティア・センプレボニー) による『The Labyrinth of Solitude (孤独のラビリンス)』へと続きます。

第2部では、「光とアメリカの20世紀」をテーマに、現代イタリアを代表する作曲家 Carlo Boccadoro (カルロ・ボッカドーロ) の指揮によるフィルハーモニー管弦楽団の演奏と、ソプラノ歌手 Lauren Michelle (ローレン・ミシェル) との共演を予定。スカラ座財団とのコラボレーションは、フィルハーモニー管弦楽団の才能を促進・強化すると同時に、デザイン関係者にユニークな体験を楽しんでもらうという2つの目的で、2つの機関が共有する価値を組み合わせたいという思いから生まれました。

【ミラノ市長ジュゼッペ・サラ氏のコメント】

「ミラノサローネとの絆は、回を重ねるごとに強くなっています。ミラノは見本市であり、見本市はミラノです。展示スペースの内外で、イノベーション、創造性、研究、素材へのこだわり、美しさと有用性が息づいています。第61回サローネは、世界中から訪れる来場者や観光客を驚かせ、魅了することでしょう。彼らの存在と建設的な参加によって、ミラノとサローネが、刺激とインスピレーションを得る場所、アイデアとプロジェクトを伝え、具体化する場所として最適であることが確認されるでしょう」

【インテザ・サンパオロとのパートナーシップ】

2017年に始まった Intesa Sanpaolo (インテザ・サンパオロ) とサローネの長年にわたる制度的パートナーシップは、銀行機関がメイド・イン・イタリアの旗手であるデザインや家具などの



セクターにコミットすることをきっかけに継続されています。イタリアの大手銀行であるインテザ・サンパオロは、環境負荷の低減や海外での活動展開に取り組む企業を支援することを目的に、イタリアの家具、調度品、デザイン分野への支援を再開します。この分野へのコミットメントと専門知識を再確認し、特に関心の高い洞察を共有するため、**Banca Intesa Sanpaolo (インテザ・サンパオロ) 銀行**は、デザインにおける照明のトレンドと持続可能な展望という講演を、エウロルーチェのアリーナ、「Aurore」で開催します(4月20日木曜日 12:30pm ホール13)。持続可能な移行という現在の状況における照明分野の発展シナリオが、将来のデザイントレンドに焦点を当てながら説明される予定です。

【ミラノサローネと Radio DeeJay, Radio Capital, Radio m2o のコラボレーション】

61 回目を迎え、今回もデザインのサウンドトラックとして、更には1週間を通じてデザインのサウンドトラックとなる予定です。イベント期間中、ラジオトラックはロー・フィエラミラノのホール 22 の外、コルソイタリアから番組の一部を生放送します。音楽、エンターテインメント、情報が、ブランド、デザイナー、建築家、来場者の声と交互に流れ、DJ やプレゼンターはサローネの様子や体験をライブで発信します。

【イタリア大使館 貿易促進部 ICE の協力】

ミラノサローネを主催する FDA Eventi 社が、海外企業の経済・商業的發展を支援し、イタリアへの外国投資の誘致を促進する政府機関と積極的に協力し、サローネの各エディションにおいて、海外事業者、特にバイヤー、建築家、インテリアデザイナー、ジャーナリストの関心と参加を促す戦略活動を考案していることが確認されています。今年もまた、ICE はミラノサローネに重要かつ貴重なサポートを提供し、最も多くの有能な海外オペレーターをミラノに招き、ビジネスと地域の利益のためにシステムとして機能する国の能力を証明することができました。

2023 年の「ミラノサローネ」は、イタリアの家具輸出にとってポジティブな背景の中で開催されます。2022 年に 150 億ユーロを超える家具は、前年比 12.6%増の増加を示しています。ICE は、広範なコミュニケーションと国際化キャンペーン、80 カ国から 400 人以上の潜在的バイヤーや専門ジャーナリストを招聘するインカミングアクションでイタリア企業を支援し、同行しています。ICE 代表の **Matteo Zoppas (マッテオ・ゾッパス)** 氏は、「目的は、企業のビジネスを促進し、伝統と革新の融合を知り、社会の大きな変化に対応し、家具だけでなく芸術、文化、環境への敬意を展示会に持ち込むイタリア家具の素晴らしさを知ってもらうことです」と述べています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it